

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立北川副小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人の良さを紹介し伝えあふ活動、担任と児童一人一人が話し合う「あのねタイム」、教員が授業や休み時間に子どもに関わる時間を確保されたことで、児童の学習意欲や友人との関係が良好になっている。 4部会を中心に組織的に取り組み、おおむね達成目標には到達したが、体力づくりが、毎年低いの取組を考える必要がある。 「学習環境のユニバーサルデザイン化」「授業のユニバーサルデザイン化」については、本来の理論や目的が薄れて取組が形骸化してきている。 次年度は、教員一人一人の授業力等を向上させる取組をさらに充実させることで、児童の自主的な学習態度を高めていきたい。
2 学校教育目標	人を大切に育つ子、自立した子を育てる チーム北川副
3 本年度の重点目標	<p>◆人権・同和教育の充実 ◆思いやりや感謝の気持ちを表し、伝える力の育成 ◆あいさつの励行</p> <p>◆「主体的・対話的で深い学び」の実践・授業改善 ◆基礎学力の定着 ◆読書活動の充実</p> <p>◆児童がアイデアや工夫を発揮できる場の工夫 ◆目標や達成感を意識し、自己の成長を振り返る場の工夫</p>

4 重点取組内容・成果指標			中間評価	5 最終評価		主な担当者			
(1) 共通評価項目									
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗状況 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による教科等指導力の向上に係る研修会の実施	○「授業を通して、『できた』『わかった』と感じる」と回答する児童85%以上	・授業のUD(視覚化・焦点化・共有化)を促進し、わかる授業づくりをする。	A	・7月に実施したアンケートで肯定的に回答した児童93%。引き続き、わかる授業づくりに取り組む。	A	・12月に実施したアンケートで肯定的に回答した児童94%であった。今後もわかる授業づくりに取り組む。	A	・子どもたちに確かな学力を身に付けさせようとする先生方の熱意が強く感じられる。ただし、具体的取組にある「UD教育」の促進には課題がある。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達に、ほかほか言葉をよく使っている」と回答する児童90%以上 ○「自分のよさがわかる」と回答する児童85%以上。	・特別の教科道徳・特別支援教育に関する校内研修等の実施。 ・毎月の人権教室(集会)を実施する。 ・友達のよさがわかる「ほかほかカード」に記入し、校内に掲示をし、紹介する。	B	・「友達に、ほかほか言葉をよく使っている」と回答する児童は91%であった。引き続き「ほかほかカード」の取り組みを促進したり、自主的に友達の良さをみつけている児童を賞賛したりすることで、良さをみつける意欲を継続して高めていく。 ・「自分のよさがわかる」と回答する児童は84%だった。毎月人権教室(集会)を行うことで、自他を認める心を育む取り組みを行う。	A	・「友達に、ほかほか言葉をよく使っている」と回答する児童は92%であった。「ほかほかカード」を継続して取り組むことで、友達の良いところを見つけようとする児童の姿が多く見られた。 ・「自分のよさがわかる」と回答する児童は87%だった。毎月の人権教室(集会)では、子どもの実態に合った内容にすることで、子ども達にとってよりわかりやすい活動ができた。	A	・「ほかほかカード」の取組は素晴らしいと感じているので、今後も是非、継続していただきたい。ほとんどの子どもたちは「ほかほか言葉」を使っているが、ただ、極めて少数だが、一部の子どもは「ちくちく言葉」を使っているように感じる。 ・子どもたちには、自己肯定感、自尊感情が高まることを期待したい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「友達と楽しく学校生活を送っている」と回答する児童95%以上	・いじめの早期発見のために、毎月、児童へのいじめアンケートを行う。 ・いじめを発見した場合は、担任一人に任せず、管理職も含むチームで対応する。 ・「人が嫌がることをしない」「人が嫌になることをする」といった内容の指導を徹底して行う。また、適宜放送等で全体への指導を行う。	B	・「友達と楽しく学校生活を送っている」と回答する児童94%だった。肯定的な回答の割合が多く、今後も「友達と楽しく」という部分に焦点を当てた取り組みを行う。 ・「相手のことをもつと知ることができる」「友達ツイズ」や「友達ビンゴ」などのグループエンカウンターを各学年で取り入れる。また、活動後のシェアリングを大切にし、友達のことを知ることや一緒に活動することの良さに触れさせる。	B	・「友達と楽しく学校生活を送っている」と回答する児童94%だった。肯定的な回答の割合が多く、今後も「友達と楽しく」という部分に焦点を当てた取り組みを行う。 ・保護者や教員のアンケート結果も96%高く、学年等のチームで対応することができた。 ・「人が嫌がることをしない」「人が嫌になることをする」という目標が、子ども達と教員の間でよく共通認識できている。そのため指導がやすく、たくさんの教員が言葉をもとに指導している場面が多かった。	B	・「いじめ見逃し」にもつながることから、いじめの早期発見について、チーム対応ができるよう教職員へ周知徹底の必要がある。 ・目には見えないいじめ、いわゆるSNSなどでの誹謗中傷事件が発生しないとも限らない。こういった点を意識している。 ・保護者に対して、いじめの早期発見、早期対応に関して、協力していただくよう、PTAを通じた啓発をお願いしたい。 ・いじめ防止のための啓発授業なども是非、継続して取り組んでいただきたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童85%以上 ○「目標が達成できるように工夫して取り組んでいる」と回答した児童80%以上	・教師と児童が1対1で話し合う「あのねタイム」を実施する。 ・学校応援団の方をゲストティーチャーに招いた活動を展開し、地域の人々のくらしや伝統、文化、職業等についての理解を深める活動を行う。 ・行事や学期ごとの目標設定や振り返りの充実(キャリアパスポートの活用)を図る。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は89%だった。数値目標を達成できているので、今後も「あのねタイム」を継続して行う。 ・「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童は81%だった。各学年でゲストティーチャーとともに活動する機会を設け、理解を深めさせる。 ・「目標が達成できるように工夫して取り組んでいる」と回答した児童は84%だった。キャリアパスポートに入れる内容を決めておくことで計画的に活用する。また、2学期の初めに見直す時間を設け、自己の振り返りを行う。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は90%だった。「あのねタイム」を継続して行うことで、子ども達も先生がきちんと話を聞いてくれるという意識がもたれていると思われる。また、いろいろな先生が教室に入り、子ども達と関わったりしていることも数値が上がる要因だと思われる。 ・「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童は85%だった。2月にゲストティーチャーを招いての活動を行う。 ・「目標が達成できるように工夫して取り組んでいる」と回答した児童は85%だった。後期の初めにキャリアパスポートの活用法について教員に呼びかけを行い、意識して取り組んでいた。	A	・一人ひとり定期的に面談をしている「あのねタイム」で子供状況を把握しているため、これからも継続していただきたい。 キャリアパスポートの活用がうまくできるよう取り組んでほしい。
	○相手や場面に応じた挨拶ができるよう教育活動	○相手や場面に合わせたあいさつをしている児童90%	・学期初めに「あいさつ」に関する生活目標を提示し、あいさつすることの意味を考えさせ、実行させる。 ・あいさつをしたことが自己評価できるように数値目標(何人にあいさつができたなど)を設定させる。	B	・相手や場面に合わせた挨拶ができている児童は、84%となっている。各学年で「気持ちのよいあいさつ」や「相手や場面に合わせたあいさつ」とは、どのようなものであるか話し合い、共通の指標をもって自己評価ができるようにする。 ・「あいさつ推進活動」や「カードを活用した活動」などを紹介したり、支援したりすることで、児童の自発的で前向きなあいさつ活動を推進する。	A	・相手や場面に合わせた挨拶ができている児童は、92%となっている。職員で情報共有し共通理解を深め、取り組みを行ったことでこのような成果が得られた。 ・今後も児童が自発的に挨拶ができるように様々な活動をしていきたい。	A	・校内では、よく子どもたちは、挨拶してくれるが、地域に入ると、いまひとつ、自発的な挨拶に欠けているように感じる。 ・当該児童の特性によるものであると思うが、ほとんどの子どもたちからの自発的な挨拶が無いのが、若干、寂しく感じている。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間と歩いて登下校する時間が1週間あたり20分以上の児童生徒70%以上	・体を動かすことの楽しさを紹介し、児童の運動への興味心を高める。	B	・教職員が児童の安全確保のために、休み時間に運動場の見回りを行っている。児童たちは先生がいるということで安心感をもち、一緒に遊べることから外遊びをしている児童が増えている。	A	・児童たちは積極的に外で遊んでいる。体力アップカードなどから自身の運動習慣について振り返らせ、児童の運動意欲を向上させた。	B	・身体は、多くの子どもたちが外遊びをしているが、全体的な割合から言えば若干少ないように感じている。もっと、運動習慣が身につくような取り組みを期待したい。 ・春から秋にかけての高温時の外遊びは暑さ指数的関係で、時間や機会の確保が年々難しくなってもかまいませんね。 ・成果指標をものさし(基準)としては、達成度評価ができていないので、次年度は「働き方改革」による「評価しやすい指標の設定」を望む。
●特別支援教育の充実	○学習しやすい環境づくり	○学校のUDや合理的配慮について意識して取り組むことができた回答する教員90%以上 ○「学習に集中しやすい環境・学級である」と回答する児童・保護者90%以上	・特別支援教育の視点を取り入れた「学習環境のユニバーサルデザイン」「授業のユニバーサルデザイン」「人の環境のユニバーサルデザイン」を図る。 ・学校運営協議会やPTAと連携し、UDへの理解を深める。	C	・校内の学習環境は整っているが、様々な配慮を必要とする児童も多く、友達との関わり等の人的環境という点で、「学習に集中しやすい環境・学級」と感じる児童が目標値に達していない。児童が安心して過ごすことができるよう、環境づくりに努めていく。	B	・前回のアンケートに比べて、肯定的に回答する児童・保護者、教員が増え、目標値に近づいた。今後も、校内の学習環境を整え、様々な配慮を必要とする児童への対応を行いながら、児童が安心して過ごすことができるよう、「学習しやすい環境づくり」に努める。	B	・本校のUD教育の推進は、学校運営協議会の大きな柱の一つであり、今後も、他校の模範となるように、しっかりと続けていきたい。ただし、教職員アンケートからUDに対する関心度低下が懸念される。 ・学習しやすい環境づくりに向けて地域も積極的に係わるようにしていきたい。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗状況 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○「自ら進んで学ぶ児童」の推進	○児童自ら進んで学習活動に取り組む授業の実践	○「授業を通して、『自分から進んで学習ができた』と感じる」と回答する児童85%以上 ○校内研修を通して自身の長所や課題を自覚し、改善に生かすことができる教師90%以上	・児童の意欲を高めるような授業づくりをする。 ・既習の学習内容から本時の課題をもてるようにする。	A	・「自分から進んで学習ができた」と感じると回答した児童が89%。 ・「自分から進んで学ぶ児童に関する専門性が向上した」と回答した教員が98%。	B	・「自分から進んで学習ができていく」と回答した児童が89%。「自分から進んで学ぶ児童に関する専門性が向上した」と回答した教員が88%。どちらも前回と同様に目標値に達することができた。	A	・見守り活動を通じて、熱心な指導により、子どもたちが主体的に学習に取り組んでいこうとする意欲が、確実に醸成されていると感じている。今後も、教職員の先生方の頑張りに期待したい。 ・自ら進んで学習できていない11%の児童のうち改善可能な児童が把握できていて次年度につながる取組をお願いしたい。
5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育</p> <p>・「ほかほか活動」や「あのねタイム」が児童の学習意欲や友人との関係が良好になっているので、継続していきたい。 ・4部会を中心に組織的に取り組み、おおむね達成目標には到達したが、体力づくりが、毎年低く、達成に難しいことから別の成果指標に変更していく。 ・ユニバーサルデザイン教育については、形骸化してきているので、再考する必要がある。 ・次年度は、教員一人一人の授業力等を向上させる取組をさらに充実させることで、児童の学習意欲を高めていきたい。</p>								